

- 昭和53年 9月20日印刷
●昭和53年11月 1日発行
●編集・発行者 竹島紀元
●編集スタッフ

塚本雅啓／松尾定行／宮原正和
日比 彰／沖 勝則／三浦 衛

1978・11 NO.141 Vol.12 NO.11



- アートディレクト 唯野信廣
●発行所
(株)鉄道ジャーナル社◎
〒102 東京都千代田区飯田橋4-8-6
日産ビル 電話03(264)1891・1892
振替口座 東京 9-82820
●印刷所 凸版印刷株式会社

国鉄監査報告書によると昭和52年度もまた国鉄の赤字は8千億円を超える巨額となった。抜本的な経営改善計画を策定し、運賃の大幅値上げをはじめ新しい再建のための諸施策を実施した初年度であることを考えると前途は想像以上にきびしそうだ。利用者の「国鉄はなれ」はあいかわらず目立ち、旅客・貨物とも前年度より輸送実績が一段と減少しているが、なかでも新幹線利用者の大幅な減少(輸送人キロで12%)は問題である。これは一般的な長距離利用者の減少とあわせて遠距離の「旅」が完全に空に移行したことを物語るもので、鉄道の存亡にかかわる重大事であるといつてよい。貨物輸送にしても一部の例外を除いて運ばば運ぶほど赤字がふえるという宿命を背負われている。

加えて来春には国鉄運賃8%値上げの動きもあり、実現すれば「国鉄はなれ」はいっそう顕著になるであろう。今回の国鉄の52年度実績や値上げについて新聞各紙の論調はきわめてきびしいが、肝心の国鉄が果たしてどのくらい深刻に受けとめているのか——? 例えば円高による電力料金の差益還付を駅施設などのサービス改善に回すべきだという国労の主張は甘すぎるし、9月12・13日に予定したストを総評の要請で1日くり下げるといふ国労・動労の暴挙にいたっては言語道断というほかない。スピードはもちろんだが安全正確な輸送、どの乗物よりも快適な乗り心地、そして職員の厳正かつ親切な態度——それが真のサービスであり、国鉄に客を呼びもどす唯一の道であろう。

シリーズ・日本の鉄道⑪ 名古屋

青木栄一
編集部

7

●特集 鉄道車両の使命と廃車

時代にふさわしい車両を求めて	佐々木峻一	25
設備投資計画と車両	羽島継男	32
長野電鉄の輸送改善と車両の活用	小林宇一郎	37
ドキュメント★列車追跡 ②⑥		
廃車と新造 181系<とき>の珍事!?	日比 彰／三浦 衛	41
永訣の日 「流電」の最期	三浦 衛	51
去りゆく車両への はなむけ	編集部	59
今月の撮影地⑤ 中央西線の70系を記録	徳田耕一	72
将来の国鉄車両の廃車を占う	編集部	74
ドキュメント★列車追跡 ②⑦ 夢と郷愁の山岳夜行<きそ6号>	種村直樹／沖 勝則	77

ニュース・ファイル(国鉄・私鉄・海外鉄道の動き) 85

★レールウェイ・トピックス

長岡運転所70系の最後のご奉公	76
国鉄赤字 好転せず	89
京阪電鉄2600系がデビュー	山村定雄 90
京福観山線のホットな話題	92
初の「冷房市電」が熊本に登場	123
東京都交通局10-000系の量産車が完成	山田秀雄 92
「急行列車」再発見⑤ <内房><外房>	96
<南風>教室	種村直樹 98
トップ・アングル	103

ブルー・トレイン 126

◆ワイドレンズ／記念キップ・コーナー(126)◆R「クイズ」/鉄道友の会だより(127)◆鉄道記事ざっくばらん／魚眼(128)◆Q&A／ズームレンズ(129)◆書評／新刊紹介(130)◆外国趣味誌紹介／伝言板(131)

53・10にともなう電車の転配属

★シリーズ・現場⑤	小樽宏明	107
たす 輔ける——機関区	永崎祐之	116
ポスターと書物のドラマ⑪	佐々木桔梗	118
新しい軽電車時代へのいざない(2)	野村 董	120
レールウェイ・レビュー		125
かいがいてつどうイントロダクション	本島三良	132
中国の鉄道(上)	池田寿亀	134
タブレット		143
次号予告／ジャーナル編集室／乗務員室		146

表紙★新時代を迎えた名古屋の鉄道 8月20日 名古屋鉄道瀬戸線が新しい地下線を通して、都心の「栄町」まで乗り入れることになった。戦後いち早く自動車による交通体系の整備を進めた名古屋であるが、道路の渋滞その他の理由で、近年は鉄道を中心に再編成する方向に進みつつある。今後が注目されよう。(カメラ・沖 勝則)

定価580円 千60円